

「社会にかかわる」子どもを育てる授業づくり③

小学校の『学習指導要領解説 社会編』第4章指導計画の作成と内容の取扱いの中に、次の記述があります。

地域の素材を教材化し、地域の施設を積極的に活用したり地域の人々と直接かかわって学んだりする学習活動を位置付けた指導計画を作成することが大切である。(※下線は筆者)

ここでは、地域に学習活動の場を設けて、地域の人材を積極的に活用することなどに配慮した指導計画を作成し、子どもたちが地域社会への理解を一層深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるように配慮することを求めています。

人々とのかかわりを通した学びにチェンジ！

小学校3年「学校のまわり～まち探検をしよう～」

さて、子どもたちがまち探検に出かける際、次のような活動になってはいませんか？

子どもたちが、地域の様子を観察・調査しながら歩いているだけ…

このような活動においては、地域で生活する人たちの姿や顔がなかなか見えません。

もしもそうだとしたら、子どもたちが、地域の人々とのかかわりを通して学ぶ活動にチェンジしましょう！

チェンジ！



子どもたちが、探検で出会った人々にインタビューしたり、話を聞いたりしながら観察・調査する。

東京書籍の教科書『新しい社会3・4上』に、まち探検で子どもたちが、ほたるがいる池がある公園を観察したり調査したりする様子が紹介されています。例えば、この活動において、地域の人々とかかわる活動を行うことで、次のような学びが期待できます。

★ 公園に来ている人々に出会い、インタビューし、話を聞くことにより

⇒ 公園が地域の人々の憩いの場になっていることに気付く。



★ ほたる池のほたるを保護・育成する人々に出会い、話を聞くことにより

⇒ 地域には様々な人々がいて、地域づくりに貢献していることに気付く。

⇒ 地域の自然環境を大切にしたいという心情が芽生え、地域の人々と共に公園の清掃活動を行ったり、ほたるの生育環境を学んだりするなどの総合的な学習へと発展する。

地域の観察や調査・見学などの学習では、地域の人々との出会いやかかわりを大切にし、子どもたちが地域への理解を一層深め、地域への愛着をもつことができるようにならう。